

<2017>

- まさかの古希(高校同期会記念文集)

〈まさかの古希〉高校同期会古希記念文集に寄せた一文

「早大学院16期生H組てんてん会中井俊作君第二回生前告別式の貼紙。そう、今宵、俺には15年振りのクラス会で二回目の生前告別式。訳が分からん？無理もない。この日以来7か月を経た今でも、どう説明したものかと悶々としている俺なのだ。形式が苦手で思い詰める癖があり言葉に律義な俺だ。二度と会えないと思ったら、生きている内にちゃんと別れの言葉を交わしておきたい、だから生前告別式。

一回目は2001年の五月だった。産業戦士として奮闘努力を重ねてきた皆にとっちゃ理解の外の話だろうが、俺は真面目に20世紀中に死ぬと想定して己の人生を歩んできていた。その世紀の内に世界は食料危機に見舞われ、破局に直面、事態収拾に奔走する中で果てるだろうと…。環境破壊、耕地荒廃、水不足に人口増、原発事故、紛争多発、海面上昇で難民増～心配の種には事欠かなかった前世紀後半だ。最悪の事態を想定し対処するのが政治の道を志した者の仕事、そう思い定めていた俺の事だ、左程不釣り合いな覚悟でもあるまい。でも外れた！世間的にはメデタイ事だが俺はオオカミ中年の気分で居心地悪かった。で自らを謹慎処分、余程の事がない限り天草から外に出ないことにした。ある朝、JAL50周年・全国一律5千円チケット発売のチラシが目についた。手元不如意の俺の背中を押した。別れを告げよう！と、まあここまででは分からぬでもあるまい。じゃ二回目とは何だ？

以来15年、まさかの古希。前年の秋、30回目の稲作を終えていた。俺の勝手な理屈じゃあるが、30年30回の年季は捨てたものじゃない、一つの証として認めたい。謹慎を解くことにした。勿論生涯現役、稲作は続けるし手元不如意だから気軽に外には出られない。そこに近頃LCCの就航で熊本―成田往復6600円ときたもんだ！また背中を押され、出ることにした。厚かましいのは

棚上げで二度目の告別式となった次第。但し今回は香典返しに気持ちばかりのお米、一人当たり5合を用意した。今度こそ見納めだ、というだけじゃなかった。伝えたい渾身のメッセージがあつて、それを聞いて欲しかった。それこそ70年の総括:人間はどうして心得違いを起こしたか、なぜ治らないのか…理非曲直を弁えるに十分過ぎる程の科学的知見、歴史的教訓を手にししながら、この期に及んでも尙未だに軍備も貧困もこの地上から追放できない。知と富の偏在、無自覚的収奪システムとして機能する都市の肥大化、それを許す不見識。軍備に縋る臆病、貧困を必要悪とする狡猾、現場から離れ特権に胡坐をかく傲慢。才能を売る側買う側共に欲が先行する用心棒・傭兵人事。武器を手に入れた人が戦を始めて以来“殺さなければ殺される”の強迫観念に怯え続ける俺達。しかしこの成り行きの流れこそ持続不可能、先は自明の共倒れ。今の文明は既に維持するだけでも大変なのだ。人間同士が争ってなどいられるか！もし人に戦う相手ありとするなら、それは己の内に潜む臆病・狡猾・傲慢！戦場は野良で武器は鎌と鍬！大地に立って心地よい汗をかけば自ずと何をしたら良いか解ってくる。そりゃそうだ、霞を食って生きられない以上、これは生存権・基本的人権の基盤・立脚点だ。人心地がつくのが当たり前。命養う正味・正直な汗が原点なのだ！口にしたかったが果たせなかった。余りにもギャップがあつて、そのギャップを埋めるには膨大な言葉が要る、と意識したら口があらぬ方へ泳いでしまった。

古希を迎えた日、米寿に大願成就！と願かけた。大願とは:人が考える存在として“流石人間”と言われるよう、“理”を想うだけでなく“理”を行うようになる日が来る事。そうならなけりゃゴキブリが天下を取るだろう！結構、結構。

863-2424 天草市五和町手野1-2646 (2017.1月記)
0969-34-0054
090-1082-8109